

平成28年5月10日

愛知県上海産業情報センター  
余語 克昭

一般調査報告書  
江蘇省常熟経済技術開発区について

愛知県と中国江蘇省は、1980(昭和55)年7月に友好提携を締結して以来、文化・教育・経済等、様々な分野で交流を続けています。

江蘇省を含む長江下流デルタ地域は、元・明の時代から経済的先進地域であり、2014年の江蘇省の地域総生産額(GRP)は10,595億ドルと、広東省(11,035億ドル)に次いで全国第2位となっています。これは、国のGDPに当てはめても上位に位置し、15位のメキシコ(12,911億ドル)と16位インドネシア(8,886億ドル)の間に相当します。

このように産業が集積している江蘇省には、愛知県企業も多数進出しており、154社が、226拠点に進出(平成26年12月末現在/あいち産業振興機構調べ)し、同省内においてビジネスを展開されています。

同省内には多くの経済技術開発区があり、日系を含め多数の外資系企業が立地していますが、その中で、常熟市にある「常熟経済技術開発区」を訪問しましたので、ご紹介したいと思います。

## 1 常熟市について

最初に、今回訪問した常熟経済技術開発区が所在する常熟市の概要をご紹介します。常熟市は、江蘇省の東南部、上海市の西に位置し、上海、蘇州、無錫、南通などの大中市に隣接している、蘇州市傘下の5つの県級市の一つです。

3,000年あまりの歴史を有する文化都市でもあり、気候は温暖湿潤で、穏やかな風土、肥沃な土地により穀物の稔りが多いところから「常熟」と名づけられたとのこと。現在も市街地の緑化率が53%に達する緑豊かな街で、国際ガーデンシティ、全国環境モデル都市、全国社会治安先進都市、国家歴史文化都市等にも指定されています。人口は約200万人(戸籍人口は約106万人)で、トヨタ自動車をはじめとした日系企業も多く、約1,000人の日本人が暮らしています。

## 2 常熟経済技術開発区について

次に、常熟経済技術開発区についてご紹介します。

### (1) 沿革・概要

1992年に設立、常熟市内で工業団地の開発を開始し、翌1993年に江蘇省よ

り省級の開発区として認可されました（当時の名称は江蘇省常熟経済開発区）。その後、現在の沿江地区に本社を移転、2010年に国家級開発区に昇格、名称が現在の「常熟経済技術開発区」に変更されました。進出外資系企業は約300社、累計総投資額は約270億米ドルにも上ります。



## （2）交通アクセス

本社は常熟市の北部、常熟市街地まで約18k m、車で30分ほどの沿江地区に所在しています。常熟市は上海市と江蘇省の省都である南京市の間に位置し、沿江高速道路（上海-常熟-南京-武漢）と沿海高速道路（天津-常熟-蘇州-杭州-広州）の縦横2本の主要高速道路が市内で交差する交通結節点でもあります。

☆車を利用した場合の各地からのおおよその距離、時間

		距離	所要時間
上海市	市街中心部	80 k m	1時間30分
	浦東空港	130 k m	1時間45分
	虹橋空港	70 k m	1時間10分
蘇州市	市街中心部	40 k m	1時間
無錫市	市街中心部	50 k m	1時間
	無錫空港	45 k m	1時間

また、区内には、国家一級対外開放港湾である常熟港があります。5万トン級の船舶が停泊可能で、世界50カ国・地域の255の国際港と通航・通商があります。

鉄道に関しては、2018年に予定されている滬通高速鉄道が開通すれば、上海と約30分で結ばれる予定です。

今回、現地へ進出されている自動車関係のサプライヤー企業にもお話を伺うことができましたが、常熟はゲートウェイとなる上海に近く、また中国全

土に点在する納品先の間接地点であることから交通の便が非常に良いことを、拠点を設置された理由の一つとして挙げられました。

### (3) 特色、産業構造

常熟経済技術開発区は、自動車・自動車部品産業、生産機器・産業ロボット等の設備製造業、リチウム電池や樹脂材料などの新型エネルギー新型材料産業、区内にある常熟港の機能を活用した現代物流産業の誘致・育成に力を注いでいるとのことで、常熟経済技術開発区の主力団地である沿江工業団地は、特に製造業に特化した工業団地となっています。約30 k m<sup>2</sup>の敷地には、自動車産業園・設備製造産業園・輸出加工区・国際物流産業園・常熟科学技術創業園・レンタル工場坊など、各種機能別園区が設けられています。

自動車及び自動車部品産業については、現在、区内に2つの完成車メーカー(觀致汽車と奇瑞ジャガーランドローバー汽車)が、また、日本特殊陶業、住友ゴム工業、AAM等の多数の自動車部品メーカーが進出しており、華東地域における新興自動車生産基地となることを目指しています。

また、物流サービスとしては、開発区内の常熟国際物流園には、税関と商品輸出入検査検疫機構が設けられており、開発区内で通関手続きを済ませることが出来ます。

### (4) 人材の確保、人件費について

常熟経済技術開発区の特徴として、地方から出稼ぎに来るワーカーの比率が低く、約2万人のワーカーのうち7割程度が地元通勤者と、比較的地元比率が高いことが挙げられるそうです。そのためワーカー定着率は過去数年連続で90%以上と、非常に高くなっています。

人件費については、2016年5月現在、常熟市の最低賃金は月額1,820人民元であり、平均的な手取り月給レベルとしては、現場のワーカーで2,200元~2,500元、現場技術者や一般管理職で3,500元~5,000元程度との事です。

人材に関するもう一つのトピックスとして、人的資源の育成が挙げられます。常熟経済技術開発区管理委員会が出資して設立した常熟濱江職業技術学校では、約3,000名の生徒が、工作機械の操作・メンテナンス、汎用機械設備操作・メンテナンス、機電一体化技術、物流管理、財務会計、化学原理と技術分析、化学設備の操作・メンテナンスなど、開発区内企業の需要に合わせて設置された学科で学び、企業のニーズにマッチした技能者を養成しています。

### (5) サポート体制等

進出する上で、また事業活動を展開していく中で、開発区のサポート体制も、非常に重要なポイントであると言えます。常熟経済技術開発区は、20

年近くに渡る日系企業誘致及びサービスの経験を活かし、企業側の需要に柔軟に対応しているとのこと。

進出の際の現地法人設立の代行、工場建設・社員募集の協力など、あらゆる面において無償でワンストップサービスを行い、大企業のみならず中小企業にとっても進出しやすい環境を整えているとのこと。

## (6) 生活環境

最後に、居住環境について触れて見たいと思います。常熟市内には、7つの五つ星ホテル、その他多くの四つ星・三つ星ホテルが存在します。そのうちいくつかは、外国人向けのホテル式マンション(サービスアパートメント)としてもサービスを提供しています。面積は70㎡~100㎡の部屋で1月あたりの家賃は7,000元前後、一般的なマンション・アパート物件も、100㎡~140㎡の物件で1月あたりの家賃は3,500元前後と、いずれも、上海市内の日本人居住エリアにおける相場のおおよそ半額から3分の1程度ではないかという印象を受けます。

また、飲食や買い物については、日本料理屋や居酒屋も30軒ほどあり、買い物についても、パークソン等のデパート、ウォルマート等のスーパーマーケットも増え、近年特に便利になってきているとのこと。

ただし、日本人学校はないため、就学年齢のお子様がいらっしゃる家族帯同の場合は、車で1時間程度の距離にあり、最寄の日本人学校のある蘇州に居住されることが多いようです。

実際に進出を検討される際には、投資環境はもちろん、現地へ訪れて、様々な環境についても確認されることが大切です。

本稿には、経済開発区に進出するにあたっての諸費用や優遇施策、詳細なインフラ設備等の変動の恐れのある情報は記載しておりませんが、中国における事業展開をお考えの際には、本県上海事務所へ、お気軽にお問い合わせをいただければと思います。

上海産業情報センターでは、今後も引き続き中国の経済開発区について、情報提供していきたいと思っております。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

上海産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力していますが、その正確性を保証するものではありません。本情報の採否は読者の判断で行ってください。また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。